柘植地域住民の皆様へ

まちづくりアンケート回答のお願い

裏面「事業紹介」
もご覧ください

柘植地域の最近の情勢と近未来（主な変化）について

地域の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素はまちづくり協議会の各種活動にご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。まちづくりアンケート（住民意識調査）は前回2015(平成27)年以来３年ぶりの調査となります。

その間に、旧柘植保育園跡地は、「ステーション都美恵」と「杜のカフェいこいこ」の２団体にまち協が10年間の使用許可を出し、2017.11より運営がされています。

また柘植公民館（歴史民俗資料館、３偉人展示室等）については、『市最適化計画』（※注１）にしたがって、支所・公民館等とともに、ふるさと会館いがへの複合化工事が来年度（2019.4）より始まることとなっており、市直営施設としては残すところ１年あまり(~2020.3）となっています。

水道事業においては、『市水道事業ビジョン』（※注２）の下、朝古川（岡鼻）水源は、2022年度より運用廃止となり、上水道は川上ダムを水源とするゆめが丘浄水場からの送水になる予定です。

※中柘植地区は今後も滝川浄水場からの送水による利用となります。

（上）森のｶﾌｪいこいこ
（中）柘植公民館
（下）朝古川浄水場

さらに、12月議会で承認された「包括交付金第3次見直し」により、伊賀市から各住民自治協議会に交付される金額は大幅に減少することになりました。柘植地域まちづくり協議会の市からの交付金額は、2018年度6,112千円ですが2024年度には3,874千円（36%の減額）になります。それまでの期間（５年）は年々（8%,11%,17%,24%,30%）減額されていくことになります。

そうした様々な変化（見通し）は、これまでも市から周知が図られてきましたが、住民のみなさまからは様々な視点から疑問の声があるのも事実です。

（参考）北伊勢上野信用金庫柘植支店の建物廃止と店舗移転(2018)がありました。
また2021年度にはJA柘植ふれあい店の出張所化が予定されています。

一方、柘植地域にある12の区に目を向けてみますと、ほとんどの区が少子高齢化という変化の中で、今後の区を担うであろう中堅世代（40~50代）以降には年齢に空白も多々生じており、いわゆる「2025年問題」（※注3）で団塊の世代が後期高齢者となりだす頃には、時代の流れで定年延長が進んだり60代の方の就労希望が増えたりする影響が考えられ、区内の各種事業（区行政、環境維持活動等）を担う実働人口が減少する状況（一本歯の高下駄）が急速に進むことが考えられます。区運営はますます難しくなることが想像できますが、現在、ほとんどの区では課題を未整理のままで、行事等、前年踏襲の区運営が多いと分析しています。

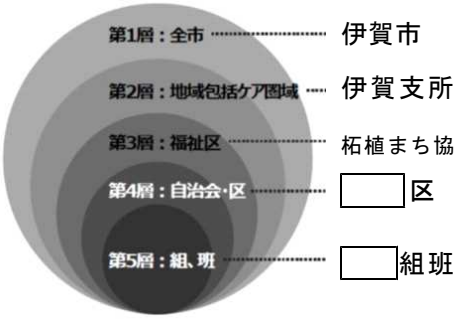
QRコードで読み取って、詳しくご覧ください

←（注１）
公共施設最適化計画関係

（注２）
水道ビジョン関係→

（注３）
伊賀市地域医療戦略2025↓

住民自治協議会（柘植地域まちづくり協議会）とは･･･



そもそもまちづくり協議会は、「伊賀市自治基本条例」(※注4)に基づき、市と基本協定を結ぶことで運営をしている組織です。身近な組・班を第１層、区を第２層、支所を第４層、市を第５層と位置付け、その中間にある第３層が住民自治協議会の位置になります。歴史が浅いだけになかなかその存在を理解するのは難しいですが、将来的には第３層の自治協組織が重要な存在になると考えられているのです。

（注４）自治基本条例→

時代の流れを先読みし、
将来にわたり持続性のある区や柘植地域の運営を！

各区でできることは各区でしていくという原則の下に、単独の区だけでは「ことがうまく運ばない」内容について12区が運命共同体との観点から、まちづくり協議会という組織により住みよい柘植地域づくりを進めていくというのが根本的なあり方です。

そのためには、❶各区の実情をさまざまな観点から現状把握と課題整理を行う、❷その過程を通じて、区の中で解決できることは区で行い、それ以外の課題についてはまちづくり協議会の場で12区が課題を出し合い意見を交流させる、❸柘植地域の課題について重要度や優先度を取りまとめ、一丸となって課題解決の事業を推進していく、以上のことが望まれます。

そもそも、平成16年にまちづくり協議会が設立された頃にはそうしたプロセスを経て『まちづくり計画』(※注5)を作成してきた経緯があります。世代交代をしていく中で、いつの間にかそうした理念の喪失を招き、ややもすると区よりも柘植地域が先にあるような感があったり、余計なことを押し付けられているような印象を持つ人が増えたことも課題としてあると思われます。

（注５）『まちづくり計画』→

いずれにせよ、これから数年の間に、施設（モノ）も予算（カネ）も激減していきます。施設や予算は無駄なく利活用することが肝要です。そして、最後に残ってくるのは人材（ヒト）であり、これこそは何物にも代えられない地域資源ととらえ、まちづくりを進めていきたいものです。

時代の激変期を乗り切り、将来の住民に地域を引き継ぐために
アンケートの提出、よろしくお願いします。

今回の住民アンケートでは、３年前の調査項目(※注6)を基に「認知度・重要度・満足度」を尋ねています。

※注6 QRコード
上『まちづくりだより』164号（前回調査の認知度調査結果を掲載）
下『まちづくりだより』165号（前回調査の記述調査結果を掲載）

柘植地域は地形的歴史的に伊賀市の中でも恵まれた地域です。霊山・旗山・北打山山系、そして淀川水源、伊賀市の玄関口としての名阪国道IC・JR関西線草津線の柘植駅、自然や文化も他にはない貴重なものがあります。そこに住む私たちは誇りと責任を感じながら、これまで先人が作ってきた地域を未来の住民に引き継ぐことが求められています。

2025年までのこれから5年あまりは、そうした意味で重要な節目の期間となることでしょう。この５年の舵取りをしていくために、この調査を貴重な一歩ととらえ、区も地域も組織の見直しを進めたいと思います。ぜひこの住民アンケートにご協力をよろしくお願いします。

柘植地域まちづくり協議会　２０１８（平成３０）年１２月